

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101745
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム甲府増坪
所在地	〒 400-0832 山梨県甲府市増坪町338 電話番号 055-242-0655

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年10月10日

【情報提供票より】 明治33年1月0日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	13人	常勤	13人	非常勤 0人 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	ALC鉄骨造タイル張り 造り			
	2	階建ての	1	～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000	円	その他の経費(月額)	21,000	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000)		有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
食材料費	朝食	0	円	昼食	0	円
	夕食	0	円	おやつ	0	円
	または1日当たり		950	円		

(4) 利用者の概要 平成20年9月3日 現在

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	60歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立甲府病院	清水歯科
---------	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成20年10月6日

全国に福祉サービスを展開する法人が、県下で運営している4事業所の一つとして開設し、4年目を迎えている。2ユニットで、近隣には社会資源となるお寺、公園、病院があり、地域との交流を望める民家も隣接し、利用者が安心して豊かな生活をおくる環境が整っている。今年度「利用者が送りたい生活を送る為」とした独自の理念も決まった。法人の事業所合同の研修会が頻繁に開催され、全ての職員の介護の質の向上に取り組んでいる。また近隣の医院への通院、買物、レストランでのお茶会など、日常生活と外出を兼ねた支援がなされ、お金に触れる機会にもなっている。前向きな新管理者のもと、ベテランのスタッフの介護力も発揮され、利用者本位に暮らせることに力を入れている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議の議題としたり、改善計画を作成し、全職員で議論した取り組みは確認できなかったが、利用者の日常生活と外出を組み込んだ支援は、無理なく根付いている。玄関の鍵の全面開放は難しいながらも、見守りの時間を増やし、開放時間を延ばすことを課題としている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 新しい管理者が就任して3か月だったため、今回は全職員ではなく、ユニットリーダーと管理者で自己評価を行っている。今後は、自己評価の全項目を職員全体で検討し、課題を共有しつつ、改善点に取り組むよう期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に1回、活動状況、入居者の様子、家族の提案、行事へのご案内を提供しているが、参加者が少ないことや、事業所の意見に片寄る事が問題点となっている。自己評価や外部評価について、第三者の意見や、非常災害時に、地域住民との関係が大切である事などから、運営推進会議で取り上げるテーマの工夫や行政との連携を図り、地域の中から、幅広い方々の参加を求める等、より活性化されるよう望みたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日常の様子を、毎月各家庭に郵送でお知らせしているが、詳細を知ることにより、逆に不安を覚える家族には、管理者から混乱が生じないように電話で説明し対応している。近隣に住む家族が多いため、面会の折、意見や相談などを受ける機会とし、職員から管理者へと報告され、ユニット会議で取り上げ、話し合われている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域からは、定期的な情報提供は得られないが、運動会に招かれ、利用者に合った競技を組み入れてもらったり、道祖神祭りへの参加など、少しずつ広がっている。しかし、まだ近隣の人々が、気軽に立ち寄り、声をかけあったりするには至っていない。今後は、地域に密着する事を目指し、運営推進会議や市の関係者に相談しながら、連携を図ることが望まれる。

2. 調査報告書

事業所名：愛の家グループホーム甲府増坪

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は、「その人らしい穏やかな生活をサポート・心をこめて親切にサービスに努める・地域の人々とのふれあいを大切にします」を柱とし、当方の理念として「利用者が送りたい生活を送る」とした支援の取り組みを、今年度新たに定めた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3つの理念は、朝礼、新人の採用時、ケアや行事などの折、管理者から職員に伝えられている。また、新管理者を迎え、新しい理念を合言葉にし、ユニットごとに取り組む前向きな姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域からは、定期的な情報提供は得られないが、運動会に招かれ、利用者に合った競技を組み入れてもらったり、道祖神祭りへ参加するなど、少しずつ広がっているが、相互の情報交換をするところまで至っていない。	○	今後とも地域の方をホームに招待したり、ホーム便りを配布するなど、地域に密着する事を目指すと共に、運営推進会議や市の関係者に相談したり、地域の同業者と悩みを共有し検討するなど、地域に積極的に働きかけることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、改善計画を作成し、全職員で議論し、検討した取り組みがされていない。また、今回の自己評価について全職員ではなく、ユニットリーダーと管理者のみが行っている。	○	自己評価を全職員で行うことの意義を改めて見つめなおすこと、外部評価での改善点について、改善計画を作成し問題点を検討したり、運営推進会議に図るなど、改善に取り組むよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動状況や利用者の様子、行事へのご案内などを情報提供している。しかし自治会長、市議会議員、民生委員、包括支援センターの方の出席をお願いしているが、だんだんと欠席者が多くなり、難しくなっている。	○	有意義な会議になるよう参加者に協力をお願いし、自己評価や外部評価の改善点について第三者の意見をもらったり、非常災害時に、地域住民との関係が大切であることを会議に図り、利用者の安全と豊かな生活に、つながるような会議が開催されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療的な処置が必要になった利用者の介護上の責任問題や、加算について相談にのってもらったことができたが、常日頃のグループホームの課題等への助言を、得るような関係までには至っていない。	○	利用者に関する相談、現在の運営推進の会議の状況、自治会との関わり方など、事業所の悩みを市の担当課に相談する機会をより多く持ち、ホームの課題解決に向け、指導や助言を仰ぎ、日頃のケアの向上に活かしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常の様子を、写真、ホーム便り、手紙などで、各家庭に毎月、郵送でお知らせしている。逆に不安を訴える家族には、管理者が電話で丁寧に説明し、対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近隣に住む家族が多く、面会の折に、意見や相談などを受け、職員から管理者へ報告され、各ユニット会議で、適切な対応ができるように、話し合っている。年に2回、家族向けにアンケートも実施し、家族の意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、計画作成担当者が諸事情で交代しているが、他の職員の定着率はよく、利用者の混乱は起きていない。また、新管理者とベテランのスタッフとの関係も安定している。新人の職員は、前任者と一か月共に働き、利用者の不安を解消している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内の同法人が4つの事業所を統括して、全ての職員を対象に、同じ内容を2・3回に分け、テーマを決め研修を行っている。必要に応じて、介護のマンネリ化を防ぐことや、ユニットリーダーからケアしながら、技術を学ぶことも実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会への参加や、同事業所間の合同研修会などの交流は盛んである。しかし、他事業所との相互訪問などの必要性を感じているが、実行されていない。	○	同地域の同業者との関係を深めるために、職員間の交流や事例検討会などが開催できるよう、他事業所との連携を図ることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居者に対し、まず家族が見学をし事業所の雰囲気を確かめ、その後、利用者と職員などの馴染みの関係を築くため、ホームへ体験入居や自宅への訪問を行い、関係を深め落ち着いた生活が始まるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各ユニットごとに雰囲気に特徴があるが、どちらも利用者の自発的な会話に溢れ、職員には笑顔が見受けられる。また、職員は利用者から自分の生きがいや、元気を与えられると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や、見直しの際に、本人や家族からアセスメントを取り、希望や意向は把握し記録している。日頃の本人の訴えや、ニーズなどは、日報に記録し、また、家族からは面会や電話などで意見を聴き、一人ひとりの生活の支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当を含めた職員が、本人や家族の意見を組み込み目標を立て、サービス内容を検討し、介護計画を作成している。また、毎日の実施記録にも目標と計画を書き、計画に沿った介護を全職員で共有し、実践できるよう工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス内容実施記録や、利用者の昼夜の様子等の記録を評価し、一か月に一回のカンファレンスを行い、3か月に1回、利用者全員の介護計画を見直している。また、状態の変化がある場合は、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わっての通院介助や、バルーンなどの医療が必要になった人など、訪問看護師の助言を得ながら、ケアに取り組んでいる。また、利用希望者に対して、契約前であっても、デイサービスや昼食などに応じ、臨機応変に受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は2週間に1回、医師の往診を受けている。また、ホームが契約した訪問看護師により、全員1週間に1回、健康管理や医療処置への助言も受けている。また、近くの精神科クリニックへ数人の通院支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における医療体制指針」があり、事業所の対応が細かく記載され、契約時、説明が行われている。症例に応じて、関係者と協議した上で、対応することとしている。車椅子やバルーン挿入者になった人も、引き続き受け入れ実践している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	歯磨き、トイレ誘導、入浴などのプライバシー、食事時のサポートなど、さりげない配慮の支援は行われている。また、部屋に入るとき、本人の了解を求めて声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ソファで寝てる人、ベッドで昼食前まで寝る人、食事をソファで食べる人、利用者同士の居室訪問など、一人ひとりのペースで過せるよう、見守りの姿勢で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の献立を厨房で3食とも調理しているが、各ユニットの台所では、利用者もお米を研いだり、味噌汁作りをしている。職員も一緒に食べて、会話もはずんでいる。月に数回、利用者の力を発揮する献立を作り、料理をする喜びに繋げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を希望する人が一人あり、入浴を楽しんでいる。嫌がる人には、促すような言葉かけを行っている。入浴や洗髪の有無を記録するようになっており、利用者の清潔への配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、居室の掃除、玄関の掃除、フローアのモップかけを利用者と共に行うなど、利用者の希望を活かしながら、共に働いている。利用者が他の利用者のお世話をする役割も、活きる喜びにつながっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出を日課に組み入れ、近くの医院への通院、ファミリーレストランでの食事やお茶、3時のおやつのお買物など、頻繁に外出し、自分でお金を支払う場面を作るなど、積極的な取り組みを実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出てしまい、地域の協力で保護してもらった事例があり、玄関の鍵の全開放までには至っていない。しかし、日中、職員が目があるときには、少しずつ開放の時間を延ばす取り組みを始めた。	○	玄関以外の鍵は外のフェンスで囲まれ、開放はいつでも可能である。入口の玄関は、事務所の部屋の前を通らなければ外に出られないことから、見守りの時間帯や方法を工夫し、鍵をかけないケアの実践への取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路は決まっているが、今年度はまだ訓練は実施されていない。また、地域との連携が築かれていないため、地域住民と合同で行う防災訓練にも参加していない。備蓄については、保管場所に備えてある。	○	利用者と共に、昼間と夜間に分け、火元の場所も何箇所か想定し、避難経路を複数考えるなどの消火訓練の実施が急がれる。また、運営推進会議に消防関係者の出席を依頼し、地域住民との訓練を実施するなどの対策を講じるよう望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人で決められているため、バランスやカロリーは守られ、利用者の摂取量も把握されている。水分量の把握に関して、医療的に必要な人のチェックは毎日行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットとも、ダイニングでは食事を、居間のソファでは、ゆったりと、くつろげる空間となっている。また、モップがいつでも使えるところに掛けられ、文房具やティッシュなども、さりげなく置かれている。壁には、手作りの日付や写真、また利用者の作品を貼り、暖かい雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の状態によって、家具などの持ち込みに差があるが、家族の協力も大きい。ハンガーに洋服が並び、ダンスや机などが配置され、個人の思い出の写真や、小物が飾られている。		